

ヒトパピローマウイルス感染症予防接種について（定期接種者用） R5.4

1 ヒトパピローマウイルス感染症予防接種(効果)について

ヒトパピローマウイルス(HPV)の中には子宮頸がんをおこしやすい種類のものがあります。HPV ワクチンは、このうち一部の感染を防ぐことができます。現在、日本において定期予防で接種受けられるワクチンは、2 価ワクチン（サーバリックス）、4 価ワクチン（ガーダシル）、9 価ワクチン（シルガード9）の3種類あります。

どのワクチンを接種するかは、接種する医療機関に相談してください。

サーバリックス及びガーダシルは、子宮頸がんをおこしやすい種類である HPV16 型と 18 型の感染を防ぐことができるとされており、子宮頸がんの原因の 50～70%を防ぐことができるとされています（※1）。

シルガード9は、HPV16 型と 18 型に加え、ほかの 5 種類（※2）の HPV の感染も防ぐことができるとされており、子宮頸がんの原因の 80～90%を防ぐことができるとされています（※3）。

ヒトパピローマウイルス感染症予防接種は、定期的な子宮頸がん検診の代わりとなるものではありません。予防接種に加えて、早期発見のために、子宮頸がん検診を定期的に受診することが大切です。

※1・3 HPV16 型と 18 型が子宮頸がんの原因の 50～70%を占め（※1）、HPV31 型、33 型、45 型、52 型、58 型まで含めると、子宮頸がんの原因の 80～90%を占めます（※3）。

※2 HPV31 型、33 型、45 型、52 型、58 型

2 対象者

小平市に住所を有する 小学校6年生から高校1年生に相当する年齢の女子

※小平市より転出された方は、当市の予診票では接種できません。

3 接種回数及び接種方法

予診のうえ1回0.5mlを筋肉内に接種します。

標準的なスケジュール

ワクチン名	サーバリックス（2価）	ガーダシル（4価）
2回目接種間隔	1回目の接種から1か月後	1回目の接種から2か月後
3回目接種間隔	1回目の接種から6か月後	1回目の接種から6か月後

ワクチン名	シルガード9（9価）3回接種（標準）	シルガード9（9価）2回接種
1回目接種	定期接種の期間内に開始	15歳未満で接種
2回目接種間隔	1回目の接種から2か月後	1回目の接種から6か月後
3回目接種間隔	1回目の接種から6か月後	—

※**シルガード9は、通常3回接種（2回目は初回接種の2か月後、3回目は初回接種の6か月後に接種します。）**

- ・3回接種…1回目の接種を15歳になってから受ける方
- ・2回接種…1回目の接種を15歳になるまでに受け、5か月以上の間隔を空けて2回目の接種で完了とすることができます。

ただし、1回目と2回目の接種間隔が5か月未満になる場合は、3回接種します。

※**いずれのワクチンも同じワクチンを続けて接種します。**ただし、サーバリックス及びガーダシルと、シルガード9の交接種は、医師と相談の上、接種が可能ため、定期接種の扱いとして差し支えない。その場合、**サーバリックス及びガーダシルから、シルガード9へ変更した場合、接種間隔は、シルガード9の接種間隔で行い、接種回数は計3回となります。**

※接種途中で妊娠した場合、接種は継続できません。その後の接種については医師にご相談ください。

※標準的な接種スケジュールでの接種が難しい場合には裏面の健康推進課までお問い合わせください。

4 実施場所 「小平市予防接種指定医療機関一覧表」のとおり

5 費用 無料

6 次の方は接種を受けないでください

- 1 明らかに発熱している方。（通常37.5℃以上をいいます。）
- 2 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方。
- 3 本剤の成分によってアナフィラキシーをおこしたことがある方。
- 4 その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいと言われた方。

7 次の方は接種前に医師にご相談ください

- 1 血小板が少ない方や出血しやすい方。
- 2 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する方。
- 3 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状のみられた方。
- 4 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方。
- 5 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる方。
- 6 本剤の成分に対してアレルギーをおこすおそれのある方。
- 7 妊婦又は妊娠している可能性のある方。（3回の接種期間中を含む）また、現在、授乳中の方。

8 接種前の注意

- 1 この説明書と同封したリーフレットをよく読み、予防接種の必要性や副反応について、理解した上で接種してください。わからないことは、接種を受ける前に医師に質問してください。
- 2 接種前日は入浴（又はシャワー）をし、体を清潔にしましょう。
- 3 予防接種は、体調の良い日に受けてください。
- 4 予診票は医師の大切な情報源になりますので、正確に記入してください。

9 接種後の注意

- 1 接種後に、注射による痛みや心因性の反応等による失神（吐き気、下痢、腹痛、頭痛、発熱、筋肉・関節の痛み、発疹など）、重いアレルギー症状（ショック症状、じんましん、呼吸困難など）が起こることがあります。すぐに帰宅せず、接種後30分間は体重を傾けることのできる背もたれのあるソファに座るなどして安静を保ち、様子を見るようにしてください。その他HPVワクチンのリスクについては、同封のリーフレットをご確認ください。
- 2 接種後は、接種部位を軽くおさえ、揉まないようにしてください。
- 3 接種当日は、入浴をしても差し支えありません。接種部位を清潔に保ってください。また、いつもの生活をし、接種後丸1日は、はげしい運動は避けてください。
- 4 予防接種をした部位が赤くなったり、腫れたり、痛んだり、軽い発熱などが起きることがあります。接種後1週間は症状に注意し、強い痛みがある場合や痛みが長く続いている場合や、体調の変化、高熱、けいれん等の異常な症状が生じた場合には、速やかに医師の診察を受けてください。

10 健康被害救済制度

予防接種により、万一、健康被害が生じ、その健康被害が予防接種によるものであると認定された場合には、予防接種法に基づく予防接種健康被害救済制度が適用されます。

詳しくは同封のリーフレットを参照し、申請いただく際は下記までお問い合わせください。